

臨床研究に関するお知らせ

2000年から2005年までに当院で肺癌の手術（病理病期 IA/IB 期の非小細胞肺癌に対する手術）を受けられ、術後再発を来した患者様へ

今般当臨床研究部では、以下の臨床研究を行うこととしました。この研究の実施に当たっては、プライバシーの確保のため、患者様を特定できないようにデータを処理した上で解析を行います。また、研究結果を公表する際には、症例のグループごとでの解析結果の発表となり、患者様個人が特定されることはありません。それでも、ご自身のデータを研究に使ってほしくないとお考えの場合には、刀根山病院臨床研究部（電話06-6853-2001）までご連絡ください。ただし、すでに発表済みなどで必ずしもご要望に添えない場合もあることをご了承ください。

「病理病期 IA/IB 期非小細胞肺癌完全切除後再発症例の肺癌組織における免疫組織学的検査の臨床的意義に関する基礎研究」

<研究の意義>

非小細胞肺癌手術後の再発時には、治療は病状進行の遅延と症状改善、QOL 改善を目的とし、患者さんの状態に応じて選択・施行されることが一般的です。非小細胞肺癌の切除症例においては病期 I 期であっても 15.7~41.4%に再発を認めるとされており、刀根山病院で手術を行った非小細胞肺癌病理病期 IA/IB 期の患者さんにおいても約 2 割の方に術後再発を認めました。ただ、再発した後の生存期間は 2 ヶ月余りから 5 年以上まで様々であり、再発後の予後を把握することは患者さんとともに残された時間の過ごし方を考え、そのニーズに応じて治療方針を決定する上で重要であると考えています。

<研究の目的>

非小細胞肺癌術後再発において、再発後の生命予後が予測可能となる因子を同定することです。具体的には、手術の時に切除した組織のうち、診断等に使用した残りの余剰検体を用いて、癌の増殖や転移に関わるタンパク質の発現を免疫組織学的に調べます。

<研究の方法>

2000 年から 2005 年までに当院で病理病期 IA/IB 期の非小細胞肺癌に対して手術を行い、術後再発を来した患者さんを対象とします。研究者が診療情報と切除した肺癌組織の免疫染色結果についてコンピュータ分析を行い、術後再発における予後因子を調べます。